



校訓 「自立 協同 創造」  
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより  
(令和7年5月21日) 第8号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

## 各ご家庭でのスマホ等のルールは本当に大丈夫ですか？

学校だより第3号(4月18日付け)の「スマートフォン、タブレット等の怖さ」というコーナーで述べさせていただいたように、全国各地で、このことをめぐる中学生の問題が頻発しているようです。特にスマートフォンを子どもに買い与えたことによるトラブルが多く、各保護者の皆様には、ご家庭でのルールづくりとともに、子どもへの毅然とした指導をしていただく“教育力”が必要になっています。最近では、養父中学校を含めて近隣の学校でもスマートフォンにまつわる課題で苦慮する保護者が増えてきたと各種会合などの際に聞くようになりました。それぞれのご家庭での様子を親が見つめ直すのと同時に、課題があるようであれば早めの対応を是非ご検討ください。



【中学生のスマートフォン利用に関連する問題(全国的な傾向ですが、本校生徒にも散見します。)]

- ① スマートフォンを介した悪口をきっかけに人間関係上のトラブルが発生。それが“いじめ”に発展する。
- ② スマートフォンに夢中になるがあまり、家庭学習が疎かになり学業不振に陥る。
- ③ スマートフォンの見過ぎで就寝時刻が遅くなって翌朝の起床が困難になる。昼夜の生活が逆転してしまい、その結果、学校へ登校しづらくなったり、そのまま不登校に陥ったりする。
- ④ スマートフォンを利用したゲームで“課金”を行い、親の知らぬ間に高額請求をされる。
- ⑤ スマートフォンを利用して、物品の売買を行い、親の知らぬ間に子どもの所持金が増える、あるいは減る。
- ⑥ スマートフォンを介して闇バイトに手を染め、罪を犯してしまう。
- ⑦ スマートフォンを通じて見知らぬ人と知り合いになり、そのまま逃避行してしまう。最悪の場合、性被害に遭う。
- ⑧ スマートフォンを買い与えてから親と子どもの会話が減ったり、子どもが親に対して反抗的になったりする。
- ⑨ スマートフォンの見過ぎで視力が低下する。また、本や新聞などを読まない中学生がますます増える。

けっして、スマートフォンが“悪”であるとは思いません。これからの時代を生きていくためには、それらを使いこなしていく力というのはむしろ重要なことになってきています。しかしながら、中学生は未成年です。また、収入もなく経済観念も未熟です。さらには、起きてしまったことに対する責任も取れません。よって、スマートフォンの利用には、保護者の“教育力”が重要になってくるのです。もしも買い与えるなら家庭でのルールを確立し、確実にそれを守らせる。それが難しいようなら買い与えない、あるいは取り上げるというような毅然とした姿勢を子どもに見せましょう。



あくまでも一例ですが、ある家庭では、「①スマートフォン(携帯電話)の購入費用・利用料金は就職

した後に親へ返還すること。②スマートフォン(携帯電話)の保管や利用はリビングに限る。」というルールを設定して所持させているとのこと。親としての後悔を絶対にしないためにも、スマートフォン利用についてのルールを確立し、しっかりと徹底しましょう。再度になりますが、スマートフォンを生徒に所持させているのはそれぞれのご家庭ですから、その結果についての最も大きな責任を問われるのは親であることを申し添えます。

先日、新聞に以下のような記事が掲載されていたので紹介させていただきます。

子どもにスマホを持たせる時、親はどのようなことに注意すればいいだろうか。子どもの安全について研究しているセコムIS研究所主任研究員の舟生岳夫さんは、「親が買って子どもに貸しているだけ。約束と違う使い方をするなら貸すことはできない。」と自由に使うことを認めているわけではないと、釘を刺すことを勧める。親の目が行き届くように、「使えるのはリビングだけで、自分の部屋には持ち込ませない」などのルールを決めてもよい。

子どもがメッセージを送信する前に親が目を通したり、メッセージの内容を聞きとったりすることで、トラブルの予防が可能になる。誰かの悪口や、いじめを持ちかけるようなメッセージが届いた時は、必ず親に相談するように約束させる。自分で解決しようとして「こんなことを言うのはやめよう」と返信すると、思わぬトラブルに発展する恐れがあるためだ。

スマホを使える時間については、「親が一方向的に決めるのではなく、『何時までならいいと思う?』と尋ねて子どもに考えさせ、その時間を守らせては」と提案する。

舟生さんは、「SNS に書いたメッセージは残り、『あの子はこんなことを書いていた』と後々、言われるかもしれない。その怖さを子どもに言いかかせてほしい」と呼びかけている。

【令和7年5月1日付け読売新聞】

## “朝食 必ず家族全員で”

令和6年11月13日(水)付けの読売新聞の記事で感銘を受けた箇所があり、今でも大切に残しています。以下に紹介させていただきます。

“僕たち夫婦は子宝に恵まれました…。2男2女で、我が家にはぎやかになりました。

大それた子育て論などありませんが、一つ実践していたのが、朝食は必ず家族全員で取るということです。時間は朝6時と決め、僕もどんなに帰宅が遅くとも必ずその時間の食卓に向かう。家族全員が集まる場を確保すると同時に、規則正しい生活で子供たちの無遅刻無欠席を促すという狙いがありました。4人とも小学校は皆勤賞でした。”【一部抜粋】 ※歌手・俳優 加山雄三

中学生であっても、朝、子どもを起こすのは案外苦勞するものです。また、それぞれのご家庭にはそれぞれの事情、それぞれの子どもにはそれぞれの事情もあります。ただし、規則正しい生活を送る上でのしつけは極めて重要な事柄のひとつです。各ご家庭でしっかりと生活習慣を身につけさせるようにご努力ください。どんな方法でもかまいません。中学生になった今でも、まだまだ遅くはありませんから。

